

別記様式 1

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」参加申込書

平成 年 月 日

事業者名

代表者名（役職、氏名（ふりがな））

住 所

電話番号

実施要領 7 の（1）に基づき、別添の出品調査書を添えて、「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」に申し込みます。

飼料用米を活用した 畜産ブランド名 (畜種・ブランド名)	
------------------------------------	--

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」 出品調査書

【各項目の記載は、畜産農家が既に連携している飼料用米生産農家や実需者等と取り交わしている契約書や取引実績等を元に記載願います、また必要に応じて記載内容に係る関係書類の提出をお願いすることがございます。】

1. 畜産経営の概要

(1) 事業者名	
(2) 住所	

※生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名で記載願います。

2. 畜産経営の種類及び米活用畜産物ブランド名

(1) 畜産経営の種類と飼養数	
(2) 米活用畜産物のブランド名及びブランド化開始年度	

※(1)の畜産経営の種類は、養豚(肥育豚,母豚)、養鶏(採卵鶏,肉用鶏)、肉用牛(繁殖牛,肥育牛)、酪農(搾乳牛)、その他()を記載願います。
 ※(2)の米活用畜産物のブランド名は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称するブランドの場合や個々の畜種でブランド名が違う場合など、各々わかるように記載願います。なお、販売促進チラシや商品写真の提出もお願いします。

3. 国産飼料用米の活用状況(平成28年度)【応募資格】

(1) 米活用畜産物の年間飼料総量に占める国産飼料用米の飼養割合(%)	
(2) 国産飼料用米の年間利用実績(トン)	
(3) 国産飼料用米の仕入れ先 ①地域(市町村名)、②農家又は農協等	
(4) 国産飼料用米の給餌状態(玄米又は破碎等)	
(5) 年間給与期間(開始月齢～終了月齢)	

※(1)の飼養割合(%)は、畜種別に採卵鶏5%、ブロイラー5%、養豚5%、乳牛3%、肉牛1%以上とする。
 ※(2)の国産飼料用米利用実績(トン)は、年間1トン以上とする。
 ※(3)の国産飼料用米の仕入れ先は、新規需要米取組計画書に基づく連携先(飼料用米農家)の情報を記載。
 ※(4)の給餌状況は、最終の形態の状況(玄米のまま又は玄米を破碎するなどの給与)を記載。
 ※(5)の年間給与期間の月齢は、日齢に変更可能とする。

4. 販路の確保(米活用畜産物の安定的な取引体制の構築)

(1) 畜産物ブランド商品名										
(2) 実需者と連携したプライベートブランド商品 ※(1)とは別にPB商品があれば記入										
(3)	主な販売先									
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">ア 市場</td> <td style="width: 50%;">カ 生協</td> </tr> <tr> <td>イ 百貨店</td> <td>キ 外食業者</td> </tr> <tr> <td>ウ スーパー</td> <td>ク インターネット</td> </tr> <tr> <td>エ 精肉店</td> <td>ケ 直販</td> </tr> <tr> <td>オ 農協(直売所含)</td> <td>コ その他</td> </tr> </table>	ア 市場	カ 生協	イ 百貨店	キ 外食業者	ウ スーパー	ク インターネット	エ 精肉店	ケ 直販	オ 農協(直売所含)
ア 市場	カ 生協									
イ 百貨店	キ 外食業者									
ウ スーパー	ク インターネット									
エ 精肉店	ケ 直販									
オ 農協(直売所含)	コ その他									
(4)	実需者と相対で事前に設定した販売価格についての取扱い(期中(1年間)での価格改定の有無)									





※①のブランド商品は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称する「ブランド」の場合や、個々の畜種で「ブランド」名が違う場合など、各々わかるように記載する。また、実需者との連携によりプライベート(PB)商品により他のものと差別化した商品がある場合は、その名称を記載願います。
 ※販売単価は、農家からの出荷価格とし、卸市場等を経由しない直接販売の場合は、その販売価格を記載願います。
 ※ブランド商品の主な販売先について、ア～コから選び、その割合を(%)で記載願います。
 (例:ア(35)、イ(30)、ウ(20)、エ(15))
 ※実需者との価格設定において、市況等に影響されずに1年間を通じて同じ価格なのか、それとも価格改定しているのか記載願います。

5. 耕畜連携の取組

(1)	①畜産農家と飼料用米農家との連携状況 ア. 27、28年度の仕入先の変更 イ. 飼料用米の仕入量の増減等	
(2)	②飼料用米以外の地域循環等の取組 (稲わら、堆肥、糞尿等)	

※(1)の①のア. の飼料用米の仕入先を変更していない場合は「変更無」、仕入拡大の場合は「追加」、仕入変更は「変更有」とする。
 ※(1)の①のイ. の飼料用米の仕入量の増減等がない場合は「増減無」、仕入増加・減少は「増加」又は「減少」とする。
 ※(2)の②の飼料用米以外の地域循環等の取組があれば、その取組内容(種類・量、相手先など)を記載願います。

6. 付加価値の向上(飼料用米を活用した畜産物の販売増加)

		平成27年度(A)	平成28年度(B)
		(年 月 ~ 年 月)	(年 月 ~ 年 月)
(1) 全体の畜産物	販売単価(円/kg)		
	販売数量(トン)		
	販売額 計		
(2) 飼料用米を活用した畜産物	販売単価(円/kg)		
	販売数量(トン)		
	販売額 計		
(3) うち、ブランド化された商品名などで販売しているもの	販売単価(円/kg)		
	販売数量(トン)		
	販売額 計		

※販売単価は、畜種毎に価格形成が違うため、畜産農家から出荷した段階での販売価格とし、販売額から販売数量を除いて算出。なお、小売や消費者等へ直接販売する場合はその価格を記載願います。(税込価格)

7. 飼料用米を活用した畜産物ブランド化に向けた対応

※本出品調査表に記載頂いた情報は、本表彰の選定審査のみに使用するものであって、他の目的に使用しません。
 また、公表に際しては事前に応募者への事前確認を経て対応致します。

「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」 出品調査書(留意点)

【各項目の記載は、畜産農家が既に連携している飼料用米生産農家や実需者等と取り交わしている契約書や取引実績等を元に記載願います、また必要に応じて記載内容に係る関係書類の提出をお願いすることがございます。】

1. 畜産経営の概要

(1) 事業者名	〇〇〇〇株式会社 など (生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名で記載)
(2) 住所	〇〇県〇〇市……

※生産部会や協議会で取組んでいる場合は、その組織名で記載願います。

2. 畜産経営の種類及び米活用畜産物ブランド名

(1) 畜産経営の種類と飼養数	経営の種類は、養豚(肥育豚、母豚)、養鶏(採卵鶏、肉用鶏)、肉用牛(繁殖牛、肥育牛)、酪農(搾乳牛)など記載 飼養数は、経営全体の28年度年間飼養数((2)に係る28年度飼養数)で、約〇〇〇〇(約〇〇〇〇)頭、羽等と記載
(2) 米活用畜産物のブランド名及びブランド化開始年度	ブランドの名称(ブランド化開始年度)

※(1)の畜産経営の種類は、養豚(肥育豚、母豚)、養鶏(採卵鶏、肉用鶏)、肉用牛(繁殖牛、肥育牛)、酪農(搾乳牛)、その他()と、頭数等を記載願います。
※(2)の米活用畜産物のブランド名は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称するブランドの場合や個々の畜種でブランド名が違う場合など、各々わかるように記載願います。なお、販売促進チラシや商品写真の提出もお願いします。

3. 国産飼料用米の活用状況(平成28年度)【応募資格】

(1) 米活用畜産物の飼料総量に占める国産飼料用米の給餌割合(%)	(%)= 国産飼料用米使用量(トン)÷飼料使用量(トン) ※決算期間で算出の場合はその旨明記 ※(関係書類例)国産飼料用米を含む給餌計画又は給餌実績等
(2) 国産飼料用米の年間利用実績(トン)	〇〇〇トン ※(関係書類例)飼料の購入又は利用実績等
(3) 国産飼料用米の仕入れ先 ①地域(市町村名)、②農家又は農協等	①〇〇市、〇〇市…… ②飼料用米農家〇〇件又は〇〇農協等 ※(関係書類例)新規需要米取組計画等購入先等
(4) 国産飼料用米の給餌状態(玄米又は破碎等)	自家で玄米を破碎し混合飼料と配合し飼育期に応じて給与、など
(5) 年間給与期間(開始月齢～終了月齢)	年間を通じて又は期間限定(毎年〇月～〇月) 開始月齢(出産〇〇後)〇ヶ月又は〇〇日 ~ 〇〇月又は〇〇日

※(1)の飼養割合(%)は、畜種別に採卵鶏5%、ブロイラー5%、養豚5%、乳牛3%、肉牛1%以上とする。
※(2)の国産飼料用米利用実績(トン)は、年間1トン以上とする。
※(3)の国産飼料用米の仕入れ先は、新規需要米取組計画書に基づく連携先(飼料用米農家)の情報を記載。
※(4)の給餌状況は、最終の形態の状況(玄米のまま又は玄米を破碎するなどの給与)を記載。
※(5)の年間給与期間の月齢は、日齢に変更可能とする。

4. 販路の確保(米活用畜産物の安定的な取引体制の構築)

(1) 畜産物ブランド商品名	ブランド商品名を記載
(2) 実需者と連携したプライベートブランド商品 ※(1)とは別にPB商品があれば記入	流通・販売事業者との契約等による特化したブランド名がある場合に記載
(3) 主な販売先	〇〇スーパー、〇〇精肉店など、主な取引先を記載
	販売割合「%」で記載 ア 〇〇 % イ 〇〇 % ウ 〇〇 % など
(4) 実需者と相対で事前に設定した販売価格についての取扱い(期中(1年間)での価格改定の有無)	市場価格に連動して月ごとに価格改定を行う場合、相対契約で年間を通じて価格改定しない場合の2段構えで対応、など。





※①のブランド商品は既に販売しているものであり、また複数の畜種を総称する「ブランド」の場合や、個々の畜種で「ブランド」名が違う場合など、各々わかるように記載する。また、実需者との連携によりプライベート(PB)商品により他のものと差別化した商品がある場合は、その名称を記載願います。

※ブランド商品の主な販売先について、ア～コから選び、その割合を(%)で記載願います。

(例:ア(35)、イ(30)、ウ(20)、エ(15))

※実需者との価格設定において、市況等に影響されずに1年間を通じて同じ価格なのか、それとも価格改定しているのか記載願います。

5. 耕畜連携の取組

(1)	①畜産農家と飼料用米農家との連携状況 ア. 27、28年度の仕入先の変更 イ. 飼料用米の仕入量の増減等	ア. 仕入先の変更ない→「変更無」、仕入先の拡大→「追加」、仕入先の変更→「変更有」と記載。 イ. 仕入量の増減ない場合は→「増減無」、仕入増の場合→「増加」、仕入減の場合→「減少」と記載
(2)	②飼料用米以外の地域循環等の取組 (稲わら、堆肥、糞尿等)	粗飼料生産水田への堆肥散布の資源循環の取組を行い、10a当たり〇〇トン、計〇〇トンの散布を農業者〇〇又は〇〇件などを対象に行う

※(1)の①のア. の飼料用米の仕入先を変更していない場合は「変更無」、仕入拡大の場合は「追加」、仕入変更は「変更有」とする。

※(1)の①のイ. の飼料用米の仕入量の増減等がない場合は「増減無」、仕入増加・減少は「増加」又は「減少」とする。

※(2)の②の飼料用米以外の地域循環等の取組があれば、その取組内容(種類・量、相手先など)を記載願います。

6. 付加価値の向上(飼料用米を活用した畜産物の販売増加)

		平成27年度(A) (年 月 ~ 年 月)	平成28年度(B) (年 月 ~ 年 月)
(1) 全体の畜産物	販売単価(円/kg)	500円 = 2000万円 ÷ 40000kg	販売単価(円/kg) = 畜産物の出荷総額 ÷ 畜産物の販売総数量、で算出
	販売数量(トン)	40トン	畜産物の販売総数量
	販売額 計	2000万円	畜産物の出荷総額
(2) 飼料用米を活用した畜産物	販売単価(円/kg)	510円 = 1530万円 ÷ 30000kg	販売単価(円/kg) = 飼料用米を活用した畜産物の出荷総額 ÷ 飼料用米を活用した畜産物の販売総数量で算出
	販売数量(トン)	30トン	飼料用米を活用した畜産物の販売総数量
	販売額 計	1530万円	飼料用米を活用した畜産物の出荷総額
(3) うち、ブランド化された商品名などで販売しているもの	販売単価(円/kg)	510円 = 1530万円 ÷ 30000kg	販売単価(円/kg) = (2)のうちブランド化された商品名での畜産物出荷総額 ÷ (2)のうちブランド化された商品名での畜産物販売総数量で算出
	販売数量(トン)	30トン	(2)のうちブランド化された商品名での畜産物販売数量
	販売額 計	1530万円	(2)のうちブランド化された商品名での畜産物出荷額

※販売単価は、畜種毎に価格形成が違うため、畜産農家から出荷した段階での販売価格とし、販売額から販売数量を除いて算出。なお、小売や消費者等へ直接販売する場合はその価格を記載願います。(税込価格)

※販売単価は、農家からの出荷価格とし、卸市場等を経由しない直接販売の場合は、その販売価格を記載願います。

7. 飼料用米を活用した畜産物ブランド化に向けた対応

<p>ブランド化の取組を実施してきた中で、①飼料用米の確保、②飼料用米の保管、③耕畜連携の取組、④販路の確保、拡大 ⑤取引先との価格の設定・交渉、⑥ブランド名の命名、⑦販売方法など工夫、努力した点や、その成果、課題など記入して下さい。</p>
--

※本出品調査表に記載頂いた情報は、本表彰の選定審査のみに使用するものであって、他の目的に使用しません。

また、公表に際しては事前に応募者への事前確認を経て対応致します。